

## 日本助産学会ニュースレター

巻頭言

第20回 日本助産学会学術集会へのお誘い

## チームで育つ助産のチカラ

## Empowering and Fostering Midwifery by Team Efforts

第20回日本助産学会 学術集会会長 福井トシ子

本学会は、先輩諸姉のご尽力により第20回を迎えることができました。この20回という記念すべき節目の年に、日本助産学会学術集会を東京で開催させていただけますことを、大変光栄に存じますと共に、意義深く感じております。

女性とともにある専門職として、助産師は女性とその子ども及び家族の健康や福祉に寄与して参りました。しかし、周産期をとりまく環境は、大変複雑な環境になって参りました。この複雑な外部環境の変化に対応していくためには、妊産婦さんをケアしていく上で、助産師個人の力だけではなく、仲間の助産師、医師、他職種、施設全体の協力と連携、ひいては、他の施設や地域との協力と連携、そしてケアの受け手である妊産婦さんやご家族が参加した形での「協働」が必要なのであり、その取り組みが急務でありましょう。この「協働」は、「チーム」という形で具体的にすることができるのではないかと考えます。妊産婦さんへのケアをよりよくするというゴールに向かって、関係者がそれぞれの異なる意見を、それぞれの立場から、対話によって紡ぎ上げていくチーム活動は、ケアを提供するための意義あるシステムだと言えましょう。このチーム活動によって、助産師もまた他職種との意見交換を通じて、対話を通して成長することは言うまでもありません。このチーム活動で得られ、発揮する「チームの力」こそ、今大切という意味を込めて、これを「チームで育つ助産のチカラ」と題し、学会のメインテーマとさせていただきます。

2003年に就業している助産師は、全国で2万5,724人。開業で、1,706人 診療所で4,534人、病院で1万7,684人、その他です。勤務している施設の特徴や、助産師活動の姿に求められる役割を理解した上で、妊産婦さんに必要なケアを、必要な場所で、必要とされる助産師が必要な時に提供していくためには、関係者との協働が欠かせません。全国の助産師をはじめ母子保健にかかわる者の貴重な研鑽の場となっている本学術集会において、「チームで育つ助産のチカラ」を具現化するために講演や、シンポジウム、ワークショップを設定しました。また、一般演題は研究と実践報告のいずれも発表いただけるように準備をしております。

本学会におきましても、助産実践能力の向上と、助産学の研究・教育の推進に、わが国の母子保健の向上と、健やかな家族の暮らしに貢献できるものと確信しております。会場は、アジアの中心都市“TOKYO”のコンベンション機能を担う有明の<東京ビッグサイト>において開催いたします。学会終了後は「お台場ほっとすぽっと」をお楽しみ下さい。

多くの皆様からの演題応募と学会参加をお待ちしています。

## 第19回 日本助産学会総会報告

前庶務担当理事 多賀佳子

日 時：平成17年3月19日（土）14：50～15：50

場 所：国立京都国際会館 メインホール

出 席：212名

### 開 会

議 事 宮中第19回学術集會会長が議長となり、プログラムにそつて議事が進行された。

### ＜報告事項＞

#### ◎理事会および評議員会報告

堀内理事長から、通常理事会を6回と書面理事会を3回開催したこと、その活動内容については【総会要綱p2-6】にそつて報告された。

評議員会において、理事会の内容が承認されたことも報告された。

#### ◎平成16年度事業報告

平澤副理事長から、【総会要綱p9-14】にそつて一括報告された。

\*「編集委員会」のメディカルオンラインについては、会員へのメリットがほとんどないため参画しないことになったことが追加された。

#### ◎第7期理事・監事・評議員選出選挙結果報告

堀内理事長から、第7期の選挙の結果、選出された理事・監事・評議員について、【総会要綱p7-8】にそつて報告された。引き続き、理事長として堀内成子氏、副理事長に平澤美恵子氏が選出されたことが報告された。

#### ◎平成16年度収支決算報告

岸田会計担当理事より、【総会要綱p17-18】にそつて一般会計、特別会計収支決算について報告された。

#### ◎監査報告

浅生監事より、収支決算について監査を執行した結果、適当であった旨報告された。

#### ◎第19回学術集會準備報告

宮中第19回学術集會会長より、【総会要綱p15-16】にそつて、学術集會準備経過報告がなされた。

### ＜審議事項＞

#### ◎平成17年度事業計画案

堀内理事長のあいさつに続き、【総会要綱p19】にそつて次年度の11項目の事業計画が説明

された。

- 1) 助産実践・教育の強化
- 2) 助産学に関する研究の振興
- 3) 学会誌・ニュースレターの発行
- 4) 組織強化
- 5) 日本学術会議関連活動
- 6) 国際助産師連盟関係活動および国際助産師の日に関する事業の実施
- 7) 国際協働事業の推進
- 8) 「健やか親子21」推進協議会活動の推進
- 9) 第20回学術集会開催
- 10) 日本助産学会創立20周年記念事業開催
- 11) その他、理事会が必要と認める事業

以上の項目に、「1、助産実践・教育の強化」として、日本助産評価機構（仮称）の設立を準備していること、「6. 国際助産師連盟関係活動」では、ICMへの参加に評議員2人およびオブザーバー2人が参加することが検討されていること、「10. 日本助産学会創立20周年記念事業」では、海外からの特別講演、優秀論文の表彰等を企画していること、「11. その他、理事会が必要と認める事業」については、助産学に関連する用語の検討、倫理事項について検討すること等が補足された。

なお、委員会名の変更があり、「国際援助システム委員会」は「国際助産協働委員会」に、「教育・業務検討委員会」は「業務検討委員会」と「助産教育評価委員会」となった。

#### ◎会則改正案

【総会要綱p20-21】に基づき、会則改正および表彰規程の新設が理事長から提案された。今回は、学術についての優秀論文賞について規定しており、「表彰」に値すると考えられる名誉賞、功労賞等については、今後継続して検討していく予定であることが補足された。

上記事項は、賛成多数で承認された。

#### ◎平成17年度収支予算案

岸田会計担当理事から、【総会要綱p22-23】にそって次年度の収支予算案が説明された。

平成17年度予算案は賛成多数で承認された。

#### ◎次々期（第21回）学術集会会長選出

堀内理事長から、評議員会で、次々期（第21回）日本助産学会学術集会会長として宮崎文子氏（大分県立看護大学）が選出された旨の報告があり、賛成多数で承認された。

#### ◀次期学術集会会長あいさつ▶

第20回学術集会会長福井トシ子氏（杏林大学医学部付属病院）からあいさつがあり、平成18（2006）年3月4日（土）・5日（日）、東京ビッグサイト（お台場）にて開催されることが紹介された。

閉会 平澤美恵子副理事長あいさつ

## 平成 17 年度の研究助成対象者の決定

学術振興委員会委員長 加藤 尚美

平成 17 年度の委託・奨励研究助成の公募の結果、以下の方々に決定しました。本年は、委託研究に 2 件、学術奨励研究に 11 件の応募がありました。慎重な審査の結果、本年は委託研究 1 件、学術奨励研究 2 件を選考し、理事会で決定しました。

本研究助成は、助産学の発展、助産実践の改善と開発、国の施策にのっとり「健やか親子 21」の推進団体としての課題の取り組みが重要なこととあります。多くの会員の研究への取り組みを期待してやみません。

選考された皆様は、助成金の重みを受け止めて頂き、計画的に進めていただくようお願いいたします。また、1～2 年以内に日本助産学会で成果を公表して下さるようお願いいたします。

今回の応募で残念ながら助成の対象にならなかった皆様には、本会の研究助成にご理解を頂きたいと思っております。

### 記

#### 1. 委託研究助成 (助成額 50 万円)

研究代表者氏名：塚本浩子

所 属：東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻博士課程

研 究 題 目：ケトン体と体組成を用いた妊婦の栄養・体重管理指針の検討

#### 2. 学術奨励研究助成 (助成額 30 万円)

研究代表者氏名：桃井雅子

所 属：聖路加看護大学看護学部

研 究 題 目：助産実践能力の比較

—学部 4 年次教育課程と大学院修士課程において—

研究代表者氏名：小川久貴子

所 属：東京女子医科大学看護学部

研 究 題 目：10 代妊婦の周産期における支援に関する研究

## 日本助産学会 20 周年記念論文募集案内

### Japan Academy of Midwifery

応募締切 2005(平成17)年11月21日(月)

2006年、日本助産学会は創立20周年を迎えることとなりました。本学会は、会員諸氏の研究活動を中心に、その成果を実践と教育に循環できることをめざすとともに助産師活動の理解と質の向上をはかる推進母体としての活動を行ってきました。設立20周年を記念して、広く学会員から記念論文を以下の要領で募集致しますので、ふるってご応募ください。

1. 応募資格：応募者はすべて（共著者含めて）本学会会員に限ります。
2. 応募要領
  - 1) 助産学の発展や助産師の将来に関する内容であれば形式は自由です。
  - 2) 応募論文の内容は未発表のものに限ります。
  - 3) 原稿はA4判横書きとし、1ページに35字×28行（約1000字）、15枚以内とする（資料、図表等ふくむ）。文字は10.5ポイント相当の明朝体を用い、執筆要領の詳細は本学会誌の投稿規程に準じます。
  - 4) 応募論文は資料・写真等も含めて返却致しません。
  - 5) 入選論文は日本助産学会誌第20巻1号に掲載するとともに、その著作権は本学会に帰属します。
3. 受付期間 2005年9月1日(木)～11月21日(月) 必着
4. 選考方法
  - 1) 記念論文選考委員会を設置し、同委員会で選考します。
  - 2) 入選論文は優秀論文3編とします。
5. 表彰  
入選論文は2006年3月5日の日本助産学会創立20周年記念式典で表彰し、賞状ならびに副賞の贈呈を行います。
6. 応募論文の送付および問い合わせ先
  - 1) 原稿には表題、著者名（ともに和文・英文）、所属機関名、連絡先を記入した表紙を添付して下さい。
  - 2) 原稿は原本1部とコピー5部作成し、「20周年記念論文」と朱書きして郵送する。  
その際、論文作成したソフトとバージョンを付記した電子データを送付して下さい。

論文送付先：〒102-0071 東京都千代田区富士見1-8-21 日本助産学会事務局  
問い合わせ（月・水・木）：事務局電話03-3221-0417、ホームページ掲載アドレス

# 国際委員会報告

国際委員会 加納 尚美

## 1. 国際助産師連盟の動き

### (1) ICM 大会

第27回国際助産師連盟大会がオーストラリア、ブリスベンにて7月24-28日の期間に開催されます。主催団体はオーストラリア助産師会で、大会会長はキャロリン・ウエーバー氏です。テーマは、「助産：健康な地域・国をめざす多様な道」です。それに先立ちまして、執行委員会、地域会議、評議委員会が開かれます。議題は盛り沢山ですが、今回はICM役員、地域代表選挙もあり、今後のICMの舵取り役を決める節目となります。各加盟団体は2名の評議員が選出できます。また、投票権はありませんが2名のオブザーバーが参加できます。本会からは、理事会および3月の学会総会にて、評議員・オブザーバー各2名がICM評議会に派遣することが承認されました。派遣者は、ICM評議員：堀内理事（理事長）、加納理事（国際担当）オブザーバー：毛利理事（国産助産協働担当）、江藤幹事（庶務担当）です。

評議員会の決定事項等は、後日ニュースレターおよび学会誌にてご報告させていただきます。

### (2) 第27回ICM（国際助産師連盟）日本助産学会ツアー

前回ニュースレターにてご案内していた助産学会ツアーは、皆様のご協力により下記の日程で開催いたします。

■第27回ICM会期（ブリスベン）：7月24日～28日

■ニュージーランド視察（クライストチャーチ・クイーンズタウン）：7月29日～8月3日

参加者の皆様におかれましては、ニュージーランド助産師会の活動に触れるとともに、相互の国際交流を図る稔り多きツアーとなりますようお願いしております。

## 2. 国際助産師連盟（ICM）と国際産婦人科連盟（FIGO）による、

### 『分娩後出血予防に向けた分娩第3期の管理』に関する共同声明について

子どもが無事産まれたにも関わらず、重篤な産後出血が原因で死亡する産婦は、世界中で毎年50万人以上にのぼります。これは、妊娠可能年齢（15～44歳）にある女性の死亡原因の13%を占め、女性の重要な健康問題として長年多くの取り組みが行われてきました。しかし、1990年以降、妊産婦死亡はほとんど改善傾向がないことが指摘されています。

今回ご紹介する『分娩後出血予防に向けた分娩第3期の管理』とは、分娩後出血による妊産婦死亡を減少するための世界規模によるキャンペーンの一環として、2003年11月にICMとFIGOにより発表された共同声明です。これについては本会およびICMメンバーの一部から賛否の意見もあるので、是非会員間でもご検討いただけたらと思います。

## 『分娩後出血予防に向けた分娩第3期の管理』に関する共同声明

分娩第3期の積極的管理は、弛緩出血による分娩後出血発生を減少することが明らかである以上、女性に提供されるべきである。

分娩第3期に子宮収縮を増すことで胎盤娩出を促進し、子癇出血による分娩後出血を予防するようデザインされた介入から成る。具体的には、

- ①子宮収縮剤を投与し、
- ②臍帯を牽引し、
- ③胎盤娩出後、適宜子宮底のマッサージを行なう

…といった構成要素を含む。

すべての出産介助者は、分娩第3期に積極的管理を行うのに必要な知識、技術、そして批判的思考力を持ち、必要な物品および機材を入手する権利を得る必要がある。

この点に関し、国際的な専門職団体は以下のような役割を果たすことが重要であり、そのために各団体が共同していく。

- ・関係団体の全会員によるこの声明の普及と実行の促進
- ・分娩後出血の十分な予防と治療の必要性に関する公的な教育
- ・国際的な助産学、産科学、医学の雑誌・ニュースレター・ウェブサイトでの声明の公表
- ・分娩後出血の予防と治療を妨げる法的およびその他の障壁への取り組み
- ・国際基準と臨床ガイドラインにおける分娩第3期の積極的管理の抱合
- ・出産介助技術をもつ者全員のため、就業前と実施の学習課程における分娩第3期の積極的管理の抱合
- ・子宮収縮剤の十分な供給と注射に必要な物品の入手を保証するための、国際的な製薬会社・政策立案者・ドナーとの協働

次に紹介するのは、共同声明が提示する、分娩後出血予防のための分娩第3期の積極的管理法についての具体的手順です。

### ■ 子宮収縮剤の投与方法

- ・児娩出後、出生児以外の胎児の存在を除外するため腹部を触診し、オキシトシン 10 単位を筋肉注射する。オキシトシンは、投与後 2-3 分で効果が出現し、副作用を最小限に抑えることができ、すべての女性に使用可能である、といった理由から、他の子宮収縮剤よりも好ましい。
- ・オキシトシンが利用できない場合、以下のような子宮収縮剤を使用する；エルゴメトリン 0.2mg を筋肉注射、シントメトリン（1 アンプル）を筋肉注射、あるいはミソプロストール 400-600mcg を経口投与。ミソプロストールの経口投与は、安全な投与および／あるいは、オキシトシンとエルゴメトリンを適切に保存できない時に限る。
- ・子宮収縮剤は適切な保存を必要とする：
  - エルゴメトリン：2-8℃の冷蔵。遮光し、凍結を防ぐ
  - ミソプロストール：室温。密閉容器に入れる

○ オキシトシン：15 - 30℃。凍結を防ぐ

- ・ これらの薬剤の副作用に関するカウンセリングが行なわれなければならない。

**警告！**子癩前症、子癩、および高血圧の女性にエルゴメトリンやシントメトリン（エルゴメトリンが含まれているので）を投与しない。

### ■ 臍帯牽引の方法

- ・ 外陰部の近くで臍帯をクランプし（健康な新生児なら臍帯拍動が停止してから）、片手で持つ。
- ・ もう一方の手を女性の恥骨真上に置き、臍帯を牽引する間、反対方向に圧を加えることで子宮を安定させる。
- ・ 臍帯がわずかに張った状態を保ち、強い子宮収縮を待つ（2 - 3分）。
- ・ 強い子宮収縮が来たら、母に怒責をかけるよう促し、胎盤が娩出するよう臍帯を非常に優しく下方へ牽引する。子宮に対する反対方向への圧力も継続する。
- ・ 臍帯牽引を30 - 40秒行なっても胎盤が下降しない場合、牽引を中止する。
  - ゆるやかに臍帯を把持したまま、十分な強さの子宮収縮が来るまで待機する
  - 次の子宮収縮で、子宮に対する反対方向への圧力を加えながら臍帯牽引を再度行なう。

収縮良好な子宮に対し、恥骨上での反対方向への牽引（圧力）を行わずに臍帯牽引を絶対に行なわない。

- ・ 胎盤が娩出したら、胎盤を両手で把持し、卵膜が巻きつくよう丁寧に回転させる。
- ・ 卵膜が切れた場合、滅菌／消毒手袋を装着して膣上部と子宮頸管をやさしく内診し、卵膜の一部が見つかったら滅菌ガーゼを鉗子に巻きつけたものを用いて除去する。
- ・ 胎盤に欠損がないか注意深く点検する。母体面の一部が欠損していたり、臍帯とともに避けた卵膜がある場合、胎盤片の遺残を疑い、適切な処置を行なう（Managing Complications in Pregnancy and Childbirth 参照）。

### ■ 子宮のマッサージ方法

- ・ 胎盤娩出後ただちに子宮底をマッサージし、子宮収縮が良好になるまで継続する。
- ・ 15分毎に子宮の収縮状態を触診してみる。最初の2時間は必要時この子宮底マッサージを繰り返す。
- ・ マッサージ後に子宮が弛緩していないことを確認する。

上記の行為が行なわれる女性とその家族に、すべての処置について説明する。介助者は、最後まで女性を支え、安心を提供し続けなければならない。

### <解説>

要は、世界基準として分娩第3期には積極的管理法を行なうこと、その実現ために加盟団体が具体的努力を促進することが明言されたことにあります。

ICMおよびFIGOは、「積極的管理を行なうことで分娩後出血の発症を抑制し、出血量や輸血の適応を減少することが証明されている」として「…このガイドラインは、強固で最新のエビデンスに基づいている」と主張しています。2003年に発表されたThe Cochrane Database of Systematic Reviewの「active versus expectant management of the third stage of labor」は、メタ・アナリシスによりこの声明を裏付ける結果を提示しています<sup>1)</sup>。



しかし、これまでも分娩第3期の管理方法には多くの議論が存在し、この声明が発表されたことで、さらなる波紋が投げられた印象も拭えません。まずは、複数の構成要素からなるこの管理法は、個々の要素に関する相対的な利点が評価されていません。また、子宮収縮剤+臍帯牽引+子宮底マッサージなのか、子宮収縮剤+臍帯の早期結紮+臍帯牽引なのか、といった構成要素と順番に関する同意もまだ得られていません<sup>2)</sup>。さらには、子宮収縮剤についても、低資源の場（いわゆる途上国）においてどの薬剤がもっとも適切で、どの投与方法（非経口的あるいは経腸的）が良いかについて様々な意見があります<sup>3)</sup>。

2000年に国連および世界189カ国の代表により採択されたミレニアム開発目標には「妊産婦の健康改善」が掲げられ、2015年までに妊産婦死亡率を4分の3削減することが具体的に明示されました。世界共通の目標達成に向けて、母子の健康を担う専門職団体として我々は具体的に行動を起こすことが求められています。しかし重要な点は、目標を達成する手段が本当に女性の視点から考えられているか、女性にとってのリスクとベネフィットが詳細に検討されているか吟味し、声を上げていくことであると言えます。

\* 共同声明の全文は、[www.internationalmidwives.org](http://www.internationalmidwives.org) focus on 中の management of postpartum hemorrhage をご覧ください。

#### 【参考文献】

- 1) Prendville WJ, Elbourne D, McDonald S. Active vs. expectant management on the third stage of labour. In The Cochrane Library, Issue 3. Oxford; Update Software, 2003
- 2) Festin MR, Lumbiganon P, Tolosa JE, Finny KA, Ba-Thike K, Chipato T, et al. International survey on variations in practice of the management of the third stage of labour, Bull World Health Organ 2003; 81: 463-9.
- 3) Miller S, Lester F, Hensleigh P. Prevention and treatment of postpartum hemorrhage: new advances for low-resource settings. Journal of Midwifery & Women's Health 2004; 49: 283-292

(小黒道子)

## 国際助産協働委員会からのお知らせ

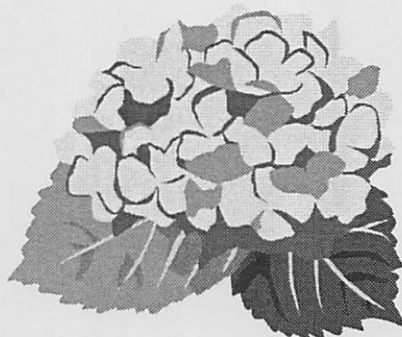
国際助産協働委員会 毛利 多恵子

今年より委員会の名前が変わりました。国際援助システム委員会から国際助産協働委員会へと変更となりました。学会として今後も助産ならではの国際協力を継続することとなりました。委員は、前年より南米協力経験のある藤原美幸さん、アジア協力経験のある、医療人類学を博士課程で学んでいる嶋澤恭子さん、助産所勤務でアフリカや中東に関心のある川野裕子さん、南米経験のある委員長毛利多恵子の4名です。

ネパールからの海外研修生招聘事業の報告を本年度の助産学会誌に掲載します。現地における研修後のフォローアップサポートの要望がありますので、ネパール国の安全性をみながら、計画をする予定です。また ODA 関連の調査団などの専門家の紹介をさせていただいたり、助産に関するプロジェクトなどの研修企画などに参加していきたいと考えております。国際協力に関心のある方を対象に委員会主催のワークショップも企画していきたいと思っております。

関心のある方はぜひご連絡いただければ幸いです。

連絡先 [mohri@db3.so-net.ne.jp](mailto:mohri@db3.so-net.ne.jp) 毛利多恵子





The Japan Academy of Midwifery

第20回 日本助産学会学術集会

チームで育つ助産のチカラ

Empowering and Fostering Midwifery by Team Efforts

会期：2006年3月4日(土)～5日(日)

会場：東京ビッグサイト

プログラム(予定)

第1日目 3月4日(土) 9:20～17:30

日本助産学会総会 9:30～10:20

第20回助産学会記念式典 10:20～12:30

会長講演 13:10～13:50

「チームで育つ助産のチカラ」Empowering and Fostering Midwifery by Team Efforts

演者：福井トシ子(杏林大学医学部付属病院 看護部長 助産師)

座長：宮崎 文子(大分県立看護科学大学 教授 助産師)

特別講演 13:50～14:50

「揺れる家族」

演者：芹沢 俊介(社会評論家)

座長：堀内 成子(聖路加看護大学 教授, 日本助産学会理事 助産師)

教育講演 14:50～15:40

「周産期の紛争防止・紛争解決 ー対話による取り組みー」

演者：和田 仁孝(早稲田大学大学院 法務研究科 法科大学院 教授)

座長：岡本喜代子(おたふく助産院, 日本助産師会安全対策室長 助産師)

シンポジウム 15:40～17:30

「周産期のリスク共有コミュニケーション」

演者：原田 悦子(法政大学社会学部 教授)

勝村 久司(医療情報の公開・開示を求める市民の会, 陣痛促進剤による被害を考える会)

稲葉 一人(科学技術文明研究所 特別研究員、大阪地方裁判所判事)

山本 智美(社会福祉法人 聖母会 聖母病院師長 助産師)

座長：佐山 静江(獨協医科大学病院 看護部長 助産師)

中西 淑美(大阪大学コミュニケーションデザインセンター講師 助産師)

第2日目 3月5日(日) 9:30～17:15

教育講演 9:30～10:20

「チームでケアを提供するということ」

演者：沼田 直子（石川県能登中部保健福祉センター・羽咋地域センター所長医師）

座長：毛利多恵子（毛利助産院，日本助産学会理事・助産師）

ワークショップ 10:20～15:00

「チームのチカラで創る院内助産院システム」

座長：遠藤 俊子（山梨大学医学部看護学科 教授 助産師）

葛西 圭子（NTT 東日本関東病院 副看護部長 助産師）

「チームのチカラで支える助産師の現任教育」

座長：村上 睦子（日本赤十字社医療センター 副看護部長，日本助産学会 理事，助産師）

石川 紀子（社会福祉法人恩賜財団 母子愛育会愛育病院 師長，助産師）

「チームのチカラで支援する周産期の看取りのケア」

座長：舛森とも子（葛飾赤十字産院 看護部長 助産師）

太田 尚子（天使の保護者 ルカの会 助産師）

交流セッション 15:00～16:40

「チームのチカラで支える産婦の自由な分娩体位」

座長：中根 直子（日本赤十字社医療センター 分娩室係長 助産師）

戸田 律子（特定非営利活動法人 いいお産プロジェクト）

一般演題（口演・ポスター） 9:30～16:45

ランチョンセミナー

「周産期のアロマセラピー」 12:20～13:20

コーディネーター：鮫島 浩二（中山産婦人科クリニック 副院長 産婦人科医師）

高橋 久子（杏林大学医学部付属病院 助産師）

\*演題総数によって会場・時間に変更がある場合がございます。  
ご了承ください

**\*\*\* 募金のお願い \*\*\***

本学会では下記の募金を受付けています。  
会員の皆様のご協力をお待ちしています。  
振込用紙を同封いたしましたので、どうぞご利用下さい。

**\* ICM スポンサー・ア・ミッドワイフ (国際基金) の募金について**  
発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。一口 2,000 円です。

振替口座番号：00190-8-710931

加入者名：日本助産学会国際基金

**\*セーフマザーフード基金の募金について**

世界で妊婦死亡率および罹病率が最も高い地域における助産の知識の発展を支援するための募金です。一口 1,000 円です。

振替口座番号：00240-8-6818

加入者名：日本助産学会 ICM セーフマザーフード基金

今回、お振り込みでの募金、京都での学会会場での募金のご協力いただきました方々（敬称略）を掲載させていただきます。

**\* ICM スポンサー・ア・ミッドワイフ (国際基金) (募金者 52 名、募金額 59,000 円)**

浅生慶子、江藤宏美、小木曾みよ子、小田切房子、加藤尚美、加納尚美、我部山キヨ子、川原淳子、熊澤美奈好、坂井明美、嶋沢泰子、島田啓子、末原紀美代、菅沼ひろ子、須藤桃代、高木貴美子、高田昌代、多賀佳子、平澤美恵子、福井トシ子、福島富士子、藤原美幸、松岡恵、丸山知子、三井政子、宮中文字子、村上睦子、毛利多恵子、八木橋香津代、山本操、匿名 2 名

**\*セーフマザーフード基金 (募金者 30 名、募金額 91,841 円)**

浅生慶子、有森直子、江藤宏美、小木曾みよ子、小田切房子、加藤尚美、加納尚美、川原淳子、熊澤美奈好、坂井明美、島田啓子、末原紀美代、菅沼ひろ子、須藤桃代、高田昌代、多賀佳子、中窪優子、平澤美恵子、藤原美幸、丸山知子、三井政子、宮中文字子、村上睦子、毛利多恵子、八木橋香津代、山本操、匿名 3 名、その他

ご協力ありがとうございました。

引き続き 皆様の暖かいご支援とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 事務局からのご案内

会員名簿を発行する年ですが、学術団体登録手続きの名簿提出が無くなったこと、4月より個人情報保護条例が施行されたことなどから、名簿発行はしないことになりました。

会費納入が自動引落しの方で退会・変更される場合は、事務手続き期間があるため必ず12月末までに事務局までご連絡下さい。引落とし後の退会については、会則第7条(三)により会費のご返金はできませんので、特にご注意ください。

平成17年度会費が未納の方は、下記郵便振込先にお振込下さい。

口座番号：00100-5-83244

加入者名：日本助産学会

